

## 第1回事前復興まちづくりミーティング

2025年11月24日 14:00-16:30

杉並区役所 中棟6階 第4会議室

## 事前復興が切り拓く都市の未来

益子智之

早稲田大学 社会科学総合学術院 専任講師

早稲田大学 都市・地域研究所 研究所員

1

## 講演の流れ

## 1. 事前復興まちづくり

## 2. 新宿区・戸塚地区での事前復興まちづくり

## 3. イタリア・フェッラーラでの事前復興の取り組み

## 4. まとめ



## 1. 事前復興まちづくり

写真: 尾鷲市三木里地区での地区会主催の防災訓練 | 出典: 益子智之

### 1 | 事前復興まちづくり

事前復興まちづくりとは？

事前に災害に備えて復興の計画を立てること

事前に復興まちづくりを進めておくこと

事前復興まちづくりの手法

出典: 新宿区「事前復興まちづくりのすすめ」2016年

- 事前復興まちづくりの事例を参考に、阪神・淡路大震災の教訓や首都直下地震の備えなどについて勉強会を開催する。
- ワークショップなどを開催し、首都直下地震を想定した仮の復興まちづくりのアイディアや計画案を検討する。
- 町会・自治会・地区協議会・地域住民で、まちづくりの検討組織をつくり、災害時の地域復興の体制を整える。
- まちづくり検討組織で、各地区・町または各地域の復興マニュアルの作成を通じて、継続的な事前復興まちづくりの活動に取り組む。

事前復興を契機として、都市の未来を構想し、小さな取り組みを進める

# 事前復興まちづくりのイメージ を膨らませてみましょう！

- ①尾鷲市三木里地区での防災観光まちづくりツアー
- ②八王子震災復興まちづくり訓練
- ③イタリア・フェッラーラでの防災・減災訓練
- ④イタリア・ナポリでのフードコンテスト

## 1 | 事前復興まちづくり

### ①尾鷲市三木里地区での防災観光まちづくりツアー

- 防災意識の向上、関係人口の増加、地域コミュニティの連帯強化、三木里らしい暮らしや文化の発信と継承など、日常の地域の持続性を向上する取り組みを推進する
- 南海トラフ巨大地震に伴う津波被災に対する事前復興まちづくりを推進する
- 三木里地区以外の事前復興まちづくりの推進に寄与する取り組み



## 1 | 事前復興まちづくり

### ①尾鷲市三木里地区での防災観光まちづくりツアー

出典:愛知工業大学 益尾研究室



7

## 1 | 事前復興まちづくり

### ①尾鷲市三木里地区での防災観光まちづくりツアー

- 1日目：オリエンテーション、まち歩き、逃げ地図づくり、郷土料理づくり



8

## 1 | 事前復興まちづくり

### ①尾鷲市三木里地区での防災観光まちづくりツアー

- 2日目：ブロック塀解体、休憩、地区会の防災訓練、星空鑑賞



9

## 1 | 事前復興まちづくり

### ①尾鷲市三木里地区での防災観光まちづくりツアー

- 3日目：えごま餅づくりor釣り体験、意見交換会、解散



10

## 1 | 事前復興まちづくり

### ②八王子市震災復興まちづくり訓練

- 令和5年度復興訓練 八王子市市役所職員向け
- テーマ：地域別復興まちづくり方針の策定
- まち点検、資源と課題整理、地域別復興地区まちづくり計画（原案）作成
- 事業手法の検討、試算表で事業規模の確認

1回目



11

## 1 | 事前復興まちづくり

### ②八王子市震災復興まちづくり訓練

- 令和5年度復興訓練 八王子市市役所職員向け
- テーマ：地域別復興まちづくり方針の策定
- まち点検、資源と課題整理、地域別復興地区まちづくり計画（原案）作成
- 事業手法の検討、試算表で事業規模の確認

2回目



12

## 1 | 事前復興まちづくり

### ③イタリア・フェッラーラで行われていた防災・減災訓練

出典：益子智之

- 地震リスクに対する地区住民防災・減災訓練「Protetti nel Quartiere」
- 市と州の市民防災局、消防局、地区住民組織、市行政の協同実施
- 近隣住民が集まりやすい地区内の駐車場にテントやトイレ、キッチンカーを設置
- 専門家による講習後、キッチンカーで調理した食事を提供



地区防災・減災訓練の様子

13



## 2. 新宿区・戸塚地区での事前復興 まちづくり

写真：新宿区戸塚地区での防災まちあるき | 出典：益子智之

## 2 | 新宿区・戸塚地区での事前復興まちづくり

### 東京の都市防災対策と事前復興まちづくりの位置付け

出典:市古太郎「事前復興街づくり 東京木密地域での全面展開から見えてきたこと」造景2019,建築資料研究社,2019.7

めざすべきトル と計画論	被害軽減 (都市防災計画、震災予防計画)	回復力向上 (事前復興計画、復興準備計画)
都市 のスケール	<p>1960年代～ (クラシカルな) 改造型都市防災事業</p> <p>主な取り組み</p> <p>1969年東京都江東区再開発基本構想 1975年事業化：白鬚地区・亀大小地区 1983年事業完了（白鬚東：都市防災不燃化促進事業） 2005年事業完了（亀大小：市街地再開発事業、98.6ha）</p>	<p>2015年～ 都市 × 事前復興</p> <p>主な取り組み</p> <p>2001年東京都 都市復興グランドデザイン 2011年都市安全確保計画制度</p>
地区 のスケール	<p>1980年代～ 地区防災まちづくり</p> <p>主な取り組み</p> <p>1981年防災生活圈構想 1995年防災都市づくり推進計画 ※2000年代以降も継承（2012年の不燃化特区など）</p>	<p>2000年代～ 事前復興まちづくり</p> <p>主な取り組み</p> <p>1997年東京都 都市復興マニュアル 2003年震災復興まちづくり模擬訓練（真井、向島） 2015年東京都 市街地の事前復興の手引き</p>

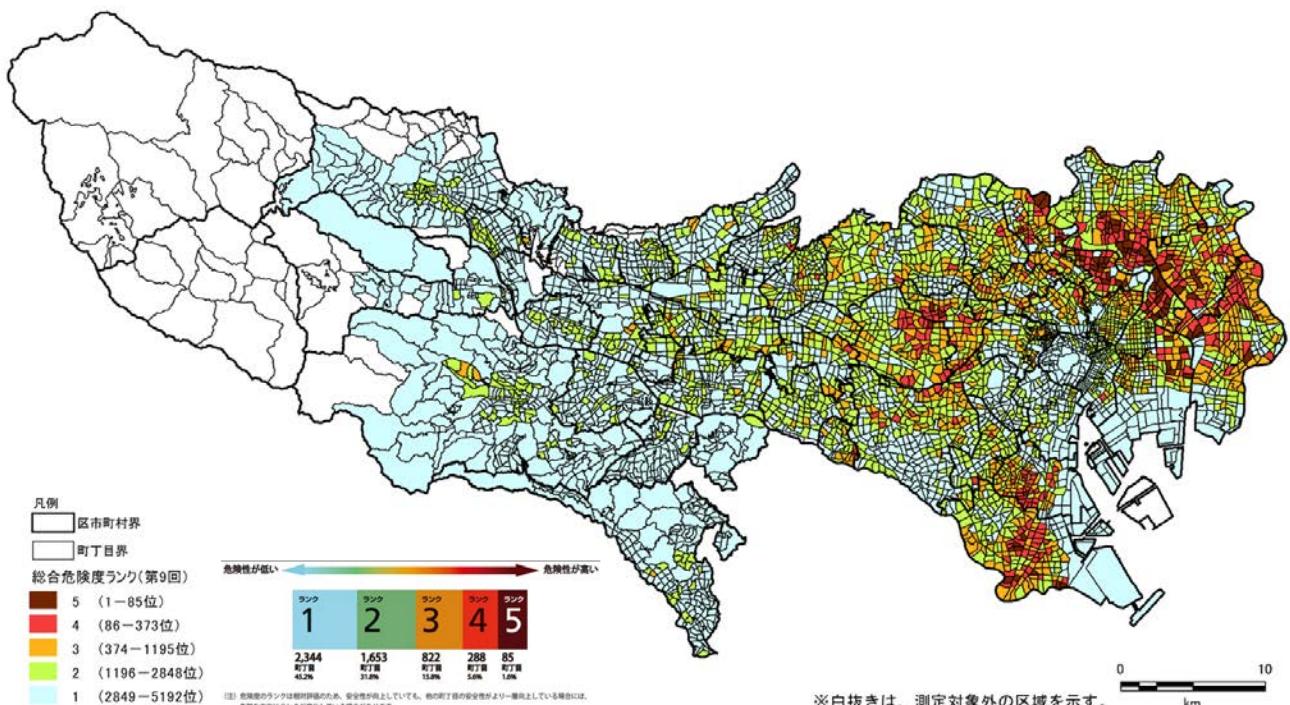
その期間で事業が終了するのではなく各時期の取り組みが「折り重なる」イメージで、たとえば広域的防災拠点整備は2000年代に入っても継続中の事業もある。

15

## 2 | 新宿区・戸塚地区での事前復興まちづくり

### 東京の都市防災対策と事前復興まちづくりの位置付け

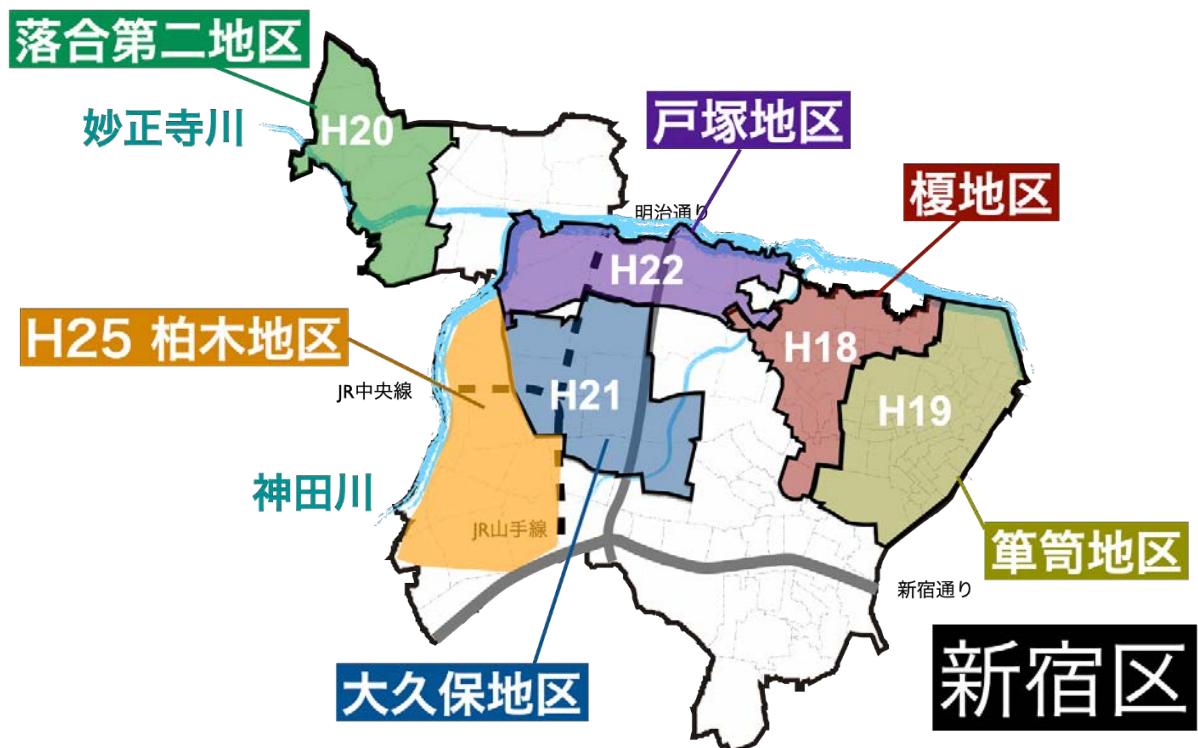
出典:東京都都市整備局



16

## 2 | 新宿区・戸塚地区での事前復興まちづくり

新宿区における協働復興模擬訓練の開催地区

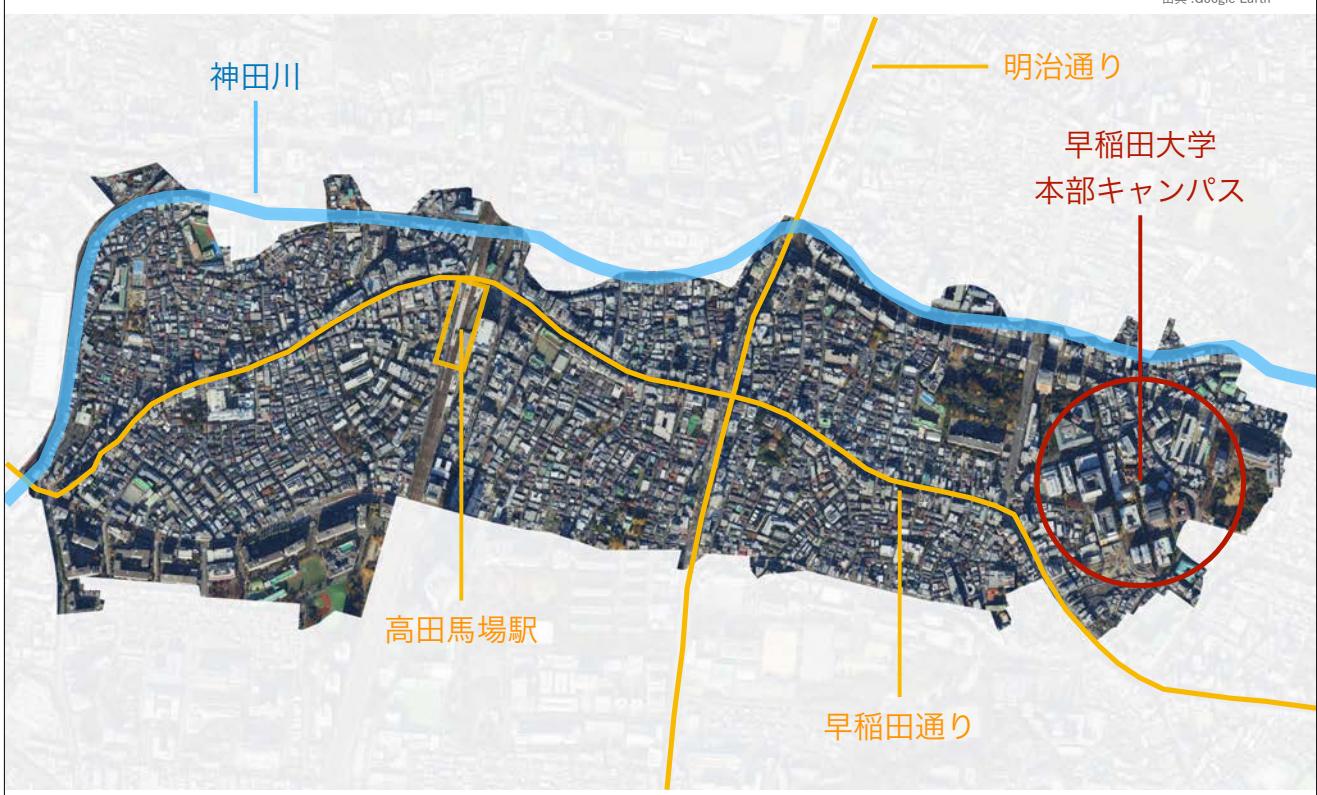


17

## 2 | 新宿区・戸塚地区での事前復興まちづくり

戸塚地区の空間構成と課題・資源

出典:Google Earth



18

## 2 | 新宿区・戸塚地区での事前復興まちづくり

戸塚地区町会連合会・地区協議会と住民有志による協働復興模擬訓練

出典:早稲田大学 都市・地域研究所

### 2010年

#### 地区協議会・町会連合会 主催の 協働復興模擬訓練



震災直後の  
まちの課題・  
資源の点検

阪神淡路大震災  
におけるまちづ  
くりの様子

震災直後から1  
年後までの生  
活再建の体験

復興まちづく  
りの課題とアイ  
デアの検討

### 2011年

#### 各町会ごとのまちあるき と 協働復興模擬訓練継続活動



各町会の防災まちづくりへ  
の意識向上、課題と資源の整理



都市計画事業への意見と自  
力再建、共同化事業の検討

### 2012年

#### 新宿区じんざい塾と 地区協議会・町会連合会協 働の復興まちづくり検討



震災の被害想定と  
建築制限の検討



復興まちづくり計画  
(案) 検討  
(住民・新宿区)



住民と行政によるま  
ちづくり計画案の意  
見交換

19

## 2 | 新宿区・戸塚地区での事前復興まちづくり

2010年 戸塚地区協働復興模擬訓練の全体プログラム

### 第1回

#### まちあるき・ガリバーマップづくり

- ▼ 危険箇所と地域資源を点検する
- ▼ 参加者間で復興まちづくりの課題と資源を共有する

### 第2回

#### 野田北部の復興まちづくりに学ぶ

- ▼ 神戸の復興まちづくりの事例を勉強する
- ▼ 協働復興模擬訓練の意義を共有する

### 第3回

#### 復興体験めくりめぐりゲーム

- ▼ 訓練対象地域の被害想定結果を知る
- ▼ ゲームを通じて生活再建の課題を共有する

### 第4回

#### 復興アイディア旗差しゲーム

- ▼ 課題の解消方法と資源の有効活用方法を検討する
- ▼ 今からできるまちづくりの「アイディア」を検討する

### 第5回

#### 成果報告会

- 課題の解消方法と資源の有効活用方法を検討する
- 今からできるまちづくりの「アイディア」を検討する

20

## 2 | 新宿区・戸塚地区での事前復興まちづくり

### 2012年 新宿区じんざい塾と復興まちづくりの検討

出典:早稲田大学 都市・地域研究所

●新宿区における協働復興模擬訓練の紹介

新宿では、平成18年度から25年度にかけて全6地区で協働復興模擬訓練を実施しました。実施後、住民組織による継続的な取り組みにつながっている地区もあります。

落合第二地区 戸塚地区 横地区 大久保地区 神田川地区 柏木地区

協働復興模擬訓練を実施した新宿区6地区

協働復興模擬訓練ととは、災害後のまちと生活の復興過程を模擬的にたどって、今から災害時に向けて何をしたら良いか考える訓練です。

東京に大震災が起き、まちと生活を復興しなくてはなりません。

震災時の混乱の中で復興まちづくりを検討するのに、事前にまちと生活にどのような被害が出て、どう復興していくのか、知っておくことが重要になります。

1. 阪神淡路大震災の復興の状況とトーク  
2. 震災直後のまちの課題・資源の点検  
3. 震災直後から1年後までの生活再建の体験  
4. 復興まちづくりの課題とアイデアの検討

協働復興模擬訓練の4つのプログラム

協働復興模擬訓練を行った各地域の成果・継続活動の例

落合第二地区: 新たな防災規制区域指定  
まちづくりの方針と計画づくりワークショップを実施し、各主体（行政／町会／協議会／住民）が震災が起きる前に改善しておくべきことと震災発生後の復興まちづくりの課題を整理し、まちづくりの方針と計画を提出書にとりまとめ、平成25年2月、新宿区長へ提出しました。

大久保地区: 地区全体の防災マップ作成  
大久保地区では協働復興模擬訓練を行ったまちあるき、防災マップ作成を町丁目単位で地区全体を網羅的に行うこと、より多くの住民の方が暮らすまちについて大地震の際に危ないところや立役つ資源を知ることを目指しています。

戸塚地区: 「災害復興支援ネットワークの形成  
戸塚地区では、発災後に町会を中心とした地域組織だけでは直後の対応から復興まちづくりまでを推進することは難しいことを認識し、行政、NPO、医療関係者や商店街などが同じテーブルで震災後のプロセスを共有し、各主体の役割を整理した手引書の作成と災害時支援ネットワークを考える会を設立しました。

事前復興まちづくりのすすめ

地震が起きる前から取り組み、震災に強く、あなたのまちらしいまちをつくりましょう。

事前復興まちづくりとは、事前に災害に備えて復興の計画を立てること、さらに、事前に復興まちづくりを進めておくことを意味します。

地域の危険な場所、空き家や高齢者がひとりで住んでいる場所等、地域のリーダー達が持っている情報と、インフラ等の物的な情報を合わせて被害想定をし、これを前提として復興の計画を協議します。また、現状の課題を把握した上で、まちの安全性や住みやすさを改善するための住民による事前のまちづくり活動は、被災後の復興をスムーズに進めることにつながるとともに、震災による被害を小さくすることも期待できます。

地域に暮らす住民が本的に事前復興まちづくりを進めることで、コミュニケーションと生活・暮らしの基盤を守りながら、地域の生活文化を継承できるのです。

新宿区

21

## 2 | 新宿区・戸塚地区での事前復興まちづくり

### 2012年 新宿区じんざい塾と復興まちづくりの検討

出典:早稲田大学 都市・地域研究所

●事前復興まちづくりの手法

①「事前復興まちづくりのすすめ」などを参考に、阪神・淡路大震災の教訓や首都直下地震の備えなどについて勉強会を開催する。

②ワークショップなどを実施し、首都直下地震を想定した仮の復興まちづくりのアイデアや計画案を検討してみる。

③町会・自治会・地区協議会・地域住民で、まちづくりの検討組織をつくり、災害時の地域復興の体制を整える。

※隣接している複数の町会・自治会が参加すると効果的です。

④まちづくり検討組織で、各地区・町または各地域の構成マニュアルの作成を通じて、継続的な事前復興まちづくりの活動に取り組む。

●阪神・淡路大震災の教訓と復興まちづくりの手順、事前にできること

首都直下地震では、他の建物の構造や道路の幅によって、まちの被害が異なる可能性があります。同じまちでも「まちからの被災」になるという点が、阪神・淡路大震災と共通するとされています。阪神・淡路大震災を例にして、首都直下地震が発生する前に復興プロセスを理解し、いざという時によりスマートな復興ができるよう準備をしておきましょう。

①人の救助や避難所運営で、はり頭の地図との繋がりや訓練が企画されました！  
②震災前のまちづくり協議会での活動意識が繋がりました！  
③部会間の連携、ボランティアとの連携が必要でした！  
④仮設市街地の充実が必要でした！  
⑤震災前よりもよいまちになりました！

阪神・淡路大震災では

震災発生!! ①

震災8日後～ ②

震災2週間後～ ③

震災3週間後～ ④

震災1ヶ月後～ ⑤

まちの復興へ

①復興への初動検討 ②地域復興協議会の発足 ③協議会による復興まちづくり活動 ④仮のくらしを支える ⑤復興まちづくり計画の策定

01 復興本部の設置 02 避難者名簿の作成 03 被害状況調査 04 協議会準備会の開催 05 設立への手続き 06 復興協議会の設立 07 活動方針の策定 08 部会ごとの活動 09 運営会議での共有 10 仮設市街地の候補地探し 11 住民の相談に乗る 12 住民のニーズを把握 13 まちづくり計画づくり 14 まちづくり計画の策定 15 事業化を目指す

復興まちづくりの手順

事前準備にかかる期間(3ヶ月程度)

が事前準備にかかる期間(3ヶ月程度)

復興対策本部とする場所、各町会・自治会  
代表者の決定

初動検討に参加する住民の体制を検討した上で  
の名簿作成

事前の準備をまとめた現段階の復興マニュアル  
の作成と復興対策本部への設置

避難者名簿用紙の作成

調査用の地区住宅地図の準備

地域復興協議会活動に関する広報手段の検討

協議会に関係する団体との連携づくりと復興まちづくりへの関わり方の検討

協議会に協力できる団体や組織の名簿作成

仮設市街地になりうる候補地の確認と土地所有者との関係づくり

仮設住宅整備と入居方法などに関する新宿区との情報共有

事前復興まちづくり計画案の作成

事前の都市計画の事業手法勉強会の開催

原作者  
新宿区区長室危機管理課  
協力  
早稲田大学佐藤道研究室・都市地域研究所  
印刷物作成番号: 2015-18-2010

22



### 3 | イタリア・フェッラーラでの事前復興の取り組み

#### BATTIAMO IL SISMA: Per una cultura diffusa della prevenzione sismica

- 2012年エミリア-ロマーニャ地震で被災
- 州政府の補助を受けて2013年に6ヶ月間実施された住民参加型ラボラトリ
- 目的：震災後に顕在化した問題点を明らかにし、専門家の協力を得て解決策を検討
- 名称：地震を退治しよう。地震減災に対する文化を広めるために。

出典 :Urban Center Ferrara



### 3 | イタリア・フェッラーラでの事前復興の取り組み

#### BATTIAMO IL SISMA: Per una cultura diffusa della prevenzione sismica

- 幹事会 (Tavolo di Negoziazione) : 3回
- ワークショップ WS (Laboratorio) : 4回
- ガイド付きまちあるきツアー : 1回

出典:Urban Center Ferrara

幹事会 2月28日

第1回 WS 3月26日

住民目線／住宅と市街地の状況／モザイク状に知る



第2回 WS 4月9日

住宅と都市の脆弱性／枠組みの構成／専門家と共に



まちあるき 5月4日

川の都市 : 7世紀から12世紀のフェッラーラ



25

### 3 | イタリア・フェッラーラでの事前復興の取り組み

#### BATTIAMO IL SISMA: Per una cultura diffusa della prevenzione sismica

- 幹事会 (Tavolo di Negoziazione) : 3回
- ワークショップ WS (Laboratorio) : 4回
- ガイド付きまちあるきツアー : 1回

幹事会 5月9日

幹事会 6月6日

まちあるき 5月4日

川の都市 : 7世紀から12世紀のフェッラーラ



第3回 WS 5月7日

地図の作成／住民のビジョン／技術者の解決策



第4回 WS 5月16日

参加型提案文書の検討／アクション内容の検討



26

### 3 | イタリア・フェッラーラでの事前復興の取り組み

#### BATTIAMO IL SISMA: Per una cultura diffusa della prevenzione sismica

##### 第4回ワークショップ 5月16日

- 参加型提案文書の検討／アクション内容の検討

出典:Urban Center Ferrara



##### LA PREVENZIONE DEL RISCHIO SISMICO COMINCIA DALLE NOSTRE CASE

Dopo il 20 Maggio 2012 è necessario essere consapevoli del rischio sismico cui la nostra città è soggetta.

Ferrara è situata in una zona che dal 2003 è classificata a pericolosità sismica 3: ciò significa che, nonostante sia considerato a basso rischio, il nostro territorio è interessato, come la quasi totalità del territorio italiano, da possibili terremoti.

Per mitigare il rischio sismico, cioè per ridurre la quantità di danni a edifici e persone causati da una possibile scossa tellurica, dobbiamo conoscere gli effetti che essa può avere su chi e su cosa, e quindi essere in grado di necessariamente studiare il sottosuolo e conoscere bene le nostre costruzioni.

Le studi del sottosuolo, che consentono di sapere come le diverse zone urbane potrebbero rispondere alle onde sismiche, competono al Comune ed è in corso di realizzazione, in collaborazione con tecnici e geologi.

Tuttavia la sicurezza delle nostre case è una responsabilità individuale che spetta al proprietario dell'immobile. Perciò è importante sapere come possiamo rendere meno vulnerabili e essere noi stessi più sicuri nelle nostre abitazioni.

come spesso è stato fatto nel centro storico per ricevere negozi. Le pareti antiche vengono rese più fragili quando si fanno passare i tubi per l'acqua, il metano, il riscaldamento o i cavi elettrici nel loro interno o vengono ricavate nicchie nel muro per i contatori. L'edificio aumenta la sua vulnerabilità quando si appesantiscono i piani superiori con soprelevazioni e con l'introduzione di elementi che aggiungono peso alla struttura.

Solo dopo un'adeguata valutazione della vulnerabilità è possibile effettuare interventi di miglioramento sismico. Alcuni interventi tipici sono quelli di potenziare la connessione al suolo delle pareti, di ancorarle meglio con i solai mediante catene, cordoli leggeri o opportuni connettori.

L'IMPORTANZA DELLA COSTANTE MANUTENZIONE ALLE NOSTRE CASE

Se, dunque, solo un'indagine tecnica ad ampio spettro quale è l'analisi di vulnerabilità è in grado di darci una lettura globale e certificata dello stato di "salute sismica" del nostro edificio, gli esperti sono concordi anche nel ritenere che



Momenti dei Laboratori partecipati di prevenzione al danno sismico. Sala della Musica, Ferrara, Marzo - Maggio 2013 e di Uno passeggio tra geologia, architettura e storia urbana. La città sul fiume: Ferrara del VII al XII secolo, 4 Maggio 2013

##### 作成されたアクション内容 10の良い習慣

27

### 3 | イタリア・フェッラーラでの事前復興の取り組み

#### BATTIAMO IL SISMA: Per una cultura diffusa della prevenzione sismica

##### 第4回ワークショップ 5月16日

- 参加型提案文書の検討／アクション内容の検討

出典:Urban Center Ferrara

**1 LA CONOSCENZA PRIMA DI TUTTO**  
E' bene sapere su quale terreno poggia la nostra casa, come è stata costruita, quali trasformazioni ha subito nel corso della sua storia, lo stato di degrado, i problemi vecchi e nuovi messi in luce dal terremoto.

**2 NON DA SOLI**  
Nel centro storico le case sono appoggiate le une alle altre. In caso di terremoto il loro comportamento dipenderà dal tipo di collegamento esistente tra esse. La prevenzione sismica si dovrà quindi fare insieme con i vicini: ciò permetterà anche di fare economia.

**3 ALCUNI INTERVENTI MINIMI**  
Ancorare ai muri le librerie e i mobili alti; fissare bene i lampadari pesanti, non mettere oggetti pesanti in alto sugli scaffali, verificare la stabilità di eventuali controsoffitti e soppalchi, prediligere mobili leggeri, specie nei piani superiori della casa.

**4 ALLEGGERIRE I SOTTOTETTI**  
Spesso i sottotetti diventano dei depositi in cui accumulare bauli pieni di cose oramai inutili, mobili, libri, oggetti di ogni genere, materiali disparati spesso pesanti. E' bene evitare tutto ciò: il peso aumenta la vulnerabilità sismica dell'edificio.

**5 CURARE LA MANUTENZIONE DEI TETTI**  
Non solo per evitare la caduta di tegole, ma perché prolungate infiltrazioni d'acqua, oltre a danneggiare le strutture portanti dell'edificio, danneggiano le travi in legno, che possono marcire e diventare così un punto di debolezza per l'abitazione.

**6 METTERE IN SICUREZZA CORNICONI E COMIGNOLI**  
Comignoli, cornicioni, balconi, muri liberi, balaustre, coronamenti e decorazioni non sono elementi strutturali, ma spesso sono i primi a cedere in caso di terremoto e possono essere molto pericolosi per l'incolumità delle persone.

- ①知識第一／
- ②単独ではなく／
- ③最低限の介入／
- ④屋根裏を軽くする／
- ⑤屋根のメンテナンス／
- ⑥庇や煙突を安全にする／
- ⑦雨樋に注意する／
- ⑧排水管と樋を点検する／
- ⑨常に忘れない／
- ⑩家の内で安全な場所を見つける

28



## 4. まとめ

写真：新宿区立原第二小学校での逃げ地図ワークショップ | 出典：益子智之

### 4 | まとめ

杉並区での事前復興まちづくりに向けて

#### 杉並の将来像と実現に向けたシナリオ 部分と全体の調和、多元的価値観の反映

各地区における  
まちづくり活動の推進

- 非常時を想定した、平時のまちづくり活動の推進
- 防災・減災×〇〇をテーマに

→  
連携  
←

杉並区事前復興  
まちづくり方針の策定

- 被災後の迅速かつ計画的な都市復興への備え
- 都市復興を進める体制づくり

↑ 更新 ↓

↑ 更新 ↓

杉並”らしさ”の再確認、地区内での共通認識を育む

- 祭り、自然環境、踊り、生業など地域固有の文化
- まちあるきを通じた地域の資源と課題の確認

第1回事前復興まちづくりミーティング

2025年11月24日 14:00-16:30

杉並区役所 中棟6階 第4会議室

## 事前復興が切り拓く都市の未来

益子智之

早稲田大学 社会科学総合学術院 専任講師

早稲田大学 都市・地域研究所 研究所員